

「地域発 元気づくり支援金」平成28年度実施事業に係るフォローアップ調査

回答団体数【地区別】

佐久	上田	諏訪	上伊那	南信州	木曾	松本	北アルプス	長野	北信	合計
13	9	8	11	16	6	18	8	18	8	115

団体の活動概要についてお伺いします

【問1】 設立時と比べた、構成員の人数の現状をお願いします。

設立時と比べ、構成員が増加	51
設立時と比べ、構成員が減少	37
設立時と比べ、構成員が同数	14
未回答・不明	13

【問2】 現在、構成員を募集している場合はその方法や課題・工夫等があればお願いします。

- HPや募集チラシ、パンフレット
- SNSの活用
- 構成員のネットワークによるクチコミ勧誘
- ハローワーク、民間求人サイト
- 人材確保のために、イベントに参加して呼びかけ
- 他

元気づくり支援金活用事業の実施後についてお伺いします

【問3】 元気づくり支援金を活用して取り組んだ活動（以下「活動」という。）を継続していますか。

- ① 継続している。（一旦休止した後、再開した場合を含む。）
- ② 同じ趣旨の活動を実施している。
- ③ 休止・終了した。

①	73
②	32
③	10

①、②を選んだ方は【問4】へ、③を選んだ方は【問9-1】へお進みください。

【問4】 活動は地域に対してどのような効果があると感じていますか。

- 地域住民を巻き込んだ活動となり、地域づくりが進んだ
- 交流人口の増加、人と人とのつながり
- 遊休農地対策（棚田の保全、耕作放棄の防止）
- 農産物の地産地消、食育・食農教育
- 地区への思いが深まり、愛着と絆ができる
- 空き家・空き店舗の再生。観光誘客
- 地域の歴史を守り後世に残す。トレッキングなどの集客
- 障がい者の方々の就労支援
- 地域防災の向上（減災・防災対策）
- 観光振興・環境美化
- 他

【問5】 元気づくり支援金活用事業を実施した年度と、現在とを比べて活動に変化はありましたか。
次の番号からお選びください。

○ 活動経費 ①増えた ②減った ③ 変わらない

	活動経費	参加者数
①	26	53
②	47	22
③	33	31
無回答	9	9

○ 参加者数 ①増えた ②減った ③ 変わらない
(※ 構成員を除く事業への参加者数)

○ 活動頻度等 ①増えた ②減った ③ 変わらない
(※ イベント開催数、支援金で整備した施設等の稼働率など)

	活動頻度等	活動の幅
①	40	69
②	16	4
③	50	32
無回答	9	10

○ 活動の幅 ①広がった ②狭まった ③ 変わらない
(※ 元気づくり支援金活用事業とは別に、新たな活動に取り組んだ → ①広がったに計上)

【問6】 活動資金の調達先を次の番号からお選びください。(複数回答可)

- ① 国、県補助金
- ② 市町村補助金
- ③ 寄付金
- ④ 構成員の負担金
- ⑤ グッズ等製品販売
- ⑥ 委託事業等による事業報酬
- ⑦ イベント等参加者負担金
- ⑧ 経費必要なし

①	9
②	26
③	15
④	42
⑤	8
⑥	12
⑦	23
⑧	6

【問7】 活動資金を得るための取組や課題・工夫等あればお願いします。

- 農作物の収穫量を増やすことで収入源を増やす
- 作業の受託や商品販売、イベント収入
- 参加者からの参加費や関連企業等による協力金
- 構成員からの会費(負担金)、組合員による組合費
- NPO法人を設立し、寄付金を受けやすくした
- 赤い羽根福祉基金の助成を活用
- 他

【問8-1】 活動を継続していく上で、課題となっていることは何ですか。

(複数回答可)

- ① 資金の確保
- ② 人材の確保
- ③ 他の機関・団体との連携
- ④ 地域住民の理解
- ⑤ 団体運営に関する知識
- ⑥ 今後見込まれる施設・備品等の更新費用の確保
- ⑦ その他(具体的に下欄にお書きください。)

- その他
- 参加者のモチベーション低下
 - 構成員の高齢化
 - 子どもの減少による教室生の減少
 - 新たな起爆剂的な要素となる事業の計画
 - イベントの幅を広げるために(組織間の)連携が必要
 - 他

①	58
②	54
③	33
④	13
⑤	4
⑥	16
⑦	14

【問8-2】 課題を解決するために必要な支援、事項は何ですか。

(複数回答可)

- ① 国・県・市町村の補助金
- ② 補助金以外の財源確保に関する知識
- ③ 地域活動などの専門知識を有する外部人材の派遣
- ④ 地域づくり団体との情報共有・ネットワークづくり
- ⑤ その他 (具体的に下欄にお書きください。)

①	41
②	22
③	10
④	39
⑤	20

その他

- 資金面や事業展開、方向性などへのトータル支援 (ビジネス化の仕組みづくり)
- 外部人材の派遣でなく、共に働く人材確保 (担い手の確保)
- 特定団体 (県内子育てママ、県内在住学生 等) への一括周知窓口
- 地域で活動している他団体と連携 (成功事例などの情報)
- 利益を得る事の出来ない事業のため、関係団体の一致団結

他

→ 【問10】へお願いします。

【問3】で「③」を選択、又は【問8-1】で「休止・終了する予定の方」

【問9-1】 元気づくり支援金活用事業を実施した後、休止又は終了した年度を記入してください。

解散年	
H28	1
H29	3
H30	4
H31 (R1)	1
R2	1

【問9-2】 活動を休止又は終了した理由を次の番号からお選びください。(複数回答可)

- ① 当初の目的を達成
- ② 資金確保が困難
- ③ 人材確保が困難
- ④ 他の機関・団体との連携不足
- ⑤ 地域住民の理解不足
- ⑥ 団体運営に関する知識不足
- ⑦ モチベーションの低下
- ⑧ その他 (具体的に下欄にお書きください。)

①	5
②	2
③	3
④	0
⑤	0
⑥	0
⑦	0
⑧	4

その他

- 初期の目的を果たしたため、休止した
- 別の組織団体で継続、拡充、進化している

他

【問10】 元気づくり支援金を活用した経験から、元気づくり支援金の補助内容などに関してのご提案や、これから応募する団体へのアドバイスがあればお書きください。

- 補助率が2分の1から5分の4と高いため、大変心強い
- 支援金だけでなく、会を運営する考え方の支援
- 事業 (制度、成果) がもっと県民に伝わる仕組みづくり
- 20年以上前からボランティアで活動に取り組んでおり、支援金により事業の拡大ができた
- いかに多くの住民を巻き込んでいけるか、業界内や身内だけで開始終了しても意味がないので、それを重要視して考えていくべき
- 文書の作成や必要書類など煩雑と感じたが、担当者の方が丁寧に教えてくれた
- 元気づくり支援金を継続してほしい (支援金があったから活動が継続できている)

他